



させほ夢大学

発行●公益社団法人 させほ夢大学
編集委員会
事務局／〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させほ夢大学会報

No.291 <2020・7>

令和2年度
第1回

2020年 7月16日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

1部 開場 14:00
講演 15:00 (終了16:10)
2部 開場 17:30
講演 18:30 (終了19:40)

大変長らくお待たせいたしました。コロナウイルスのため、延び延びになっていました29期夢大学の開講がようやく実現する運びになりました。皆様とともに喜びたいと思います。

さて、今期最初の講師は、脳に関するたゆまぬ研究を続けておられ、脳に関する知識では、右に出るものはいないと専門家の間でも高い評価を得られております、川島隆太医学博士の登場です。

高齢と共に認知症が始まりかけているのではと心配な人もおられるかもしれませんが、心配ご無用です。そのような人に光を当ててくださるのが今回の講師の先生なのです。

高齢者の認知症予防だけではなく、認知症患者の脳機能回復について、その他脳に関する幅広く深



い研究をされていますので、講演の中でも触れられるかもしれません。人間だれしも年老いていきます。加齢とともにどのような人生を過ごせばよいのか、先生の示唆に富むお話が聞けるのではと大変期待が高まります。

著書に「脳活パズル」はじめ「ことばパズル」「数学パズル」「漢字パズル」等があり、見だしたら自分の年齢を忘れるほど夢中になりそうな本を数多く出版されておられます。

脳のどの部分にどのような機能があるかを調べる研究の日本における第一人者でもある先生のお話が聞ける私たちは、大変幸せ者だと思います。これからの人生に生きる糧を与えていただけるのではと期待が膨らみます。大変楽しみです。

講 師 ● かわしま りゅうた 川島 隆太氏

テーマ ● 脳を知り、脳を鍛える

講演会は1日2回開催です。詳しくは裏面のお知らせを必ずお読みください。

川島 隆太氏のプロフィール

●1959年千葉県出身。東北大学医学部・同大学院医学研究科修了。スウェーデン王国カロリンスカ研究所客員研究員、東北大学未来科学技術共同研究センター教授等を経て2014年より現職。専門はヒトの脳活動の仕組みの解明、研究と応用。認知症患者の脳機能回復、高齢者の認知症予防または脳機能の改善、幼少児の脳機能発達促進を目的に脳機能イメージング研究に取り組んでいる。前文化審議会国語分科会委員。「脳を鍛える大人のドリル」「現代人のための脳鍛錬」等の著書多数。



次回のご案内

- と き / 8月20日(木)
- 講 師 / ジャーナリスト ビヨン ジンイル「コア・レポート」編集長 辺 真一氏
- テーマ / アジアの風を読む
～緊迫する朝鮮半島情勢と日本～

●1947年東京都出身。明治学院大学英文科卒業後、新聞記者を経てフリーとなる。1980年北朝鮮取材後、朝鮮半島問題専門誌「コア・レポート」創刊、現在編集長。1998年よりラジオたんぱ「アジア・ニュース」パーソナリティを務める。沖縄大学客員教授・海上保安庁政策アドバイザー・外国人特派員協会会員を務めた。「在日の涙 間違いだらけの日韓関係」「韓国人と上手につきあう法」「金正恩の北朝鮮」と日本」等の著書あり。

大切なお知らせ

- これまでの講演会は1日1回講演でしたが、7月16日の講演会は、新型コロナ感染による3蜜を避けるために、**1日2回講演**にて実施します。大変ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い致します。
- 1回目講演と2回目講演の学生の振り分けは、感染対策運営上、学生番号でのコンピュータ抽選指定となり**「入場ハガキ」**でお知らせします。次回の8月講演会は、その対象者を1回目と2回目を入れ替えて実施します。
- 各講演の時刻表、健康チェック表を記載した**入場ハガキに、必要事項をご記入の上、学生証と共にご持参ください。(今回は、学生証と入場ハガキが必要です)**
- 第1回目講演開始は15時から、第2回目講演は18時半から**開始しますが、新型コロナ感染防止のため、ホールの開場前に大ホールロビーにて、**健康チェックを行います。**
- ご入場の際はマスク着用をお願いします。マスクを着用されていない方のご入場はできません。
- ホールの客席は一席ずつ空けてお座りいただきます。ご協力をお願いいたします。(カラーテープを貼った席には座らないでください)
- 学生ご本人が欠席で**代理出席の場合も、必ず、学生証と入場ハガキをご持参ください。**もし、両方ともない場合は、万が一、感染者が発生した場合、捕捉追跡ができませんので、入場をお断りすることになります。
- 学生証を失くされた場合は、学生申込時に登録された住所・氏名を確認できるものを添えて、専用窓口(ホール入り口右手側に準備します)にお申し出ください。

ふるさと 地球科学紀行

- Vol.1 -

佐世保の地質 1

〔佐世保の地形と地質〕

長崎県地学会 松本 直弥

「地球科学」というとあまり聞きなじみが無いかもしれませんが、「地学」と略せば、そういえば昔、高校で習ったなあと思ひ出される方もおられるでしょうか。地球に関することを学ぶ、自然科学の一分野のことです。これから一年間、ふるさと佐世保の身近な地球科学に触れてみましょう。

写真1は、弓張岳展望台から佐世保市街と背後の烏帽子岳を遠望したものです。山は台地状で、山頂付近は傾斜が緩く、山の側面は急傾斜になっています。この地形は佐世保市周辺の地質構造を反映しています。山の上部、台地の上面は玄武岩に覆われ、中腹から山麓にかけては第三紀層が分布しています。

佐世保から松浦にかけての地域は、大まかには第三紀層

（堆積岩）を標高の高い所で北松浦玄武岩（火山岩）が覆う地質構造になっています。よく知られているところではハワイの火山、日本では大島三原山が似たような玄武岩性の火山です。玄武岩は地表に噴出すると流動性が高いため薄く広がり、冷えると硬く浸食に耐え、台地状の地形を生み出しています。



写真1：弓張岳からの烏帽子岳と佐世保市街の眺め

この玄武岩台地の分布は佐賀県北西部にも及び、日本有数の規模の溶岩台地と言われます。玄武岩基底部の標高は南端で高く（烏帽子岳南側で標高2400〜3150m）、北へ行くに従って次第に低くなり、北松浦半島北部では海水準以下となって海岸まで玄武岩類が分布します。年代測定では概ね600〜1000万年

の測定結果が得られており、その頃の佐世保は火山地帯だったわけですね。

北松浦玄武岩と第三紀層の接触部を直接観察できる所は意外に少ないのですが、志佐川沿いの「落合(おてや)の滝」(写真2)では気軽に観察することが出来ます。志佐川沿いの県道11号から東へ70mほど入った位置にあります。高さ約5mの滝の下部は第三紀層の泥岩で、中々上部を硬質の玄武岩溶岩が覆っています。泥岩は軟らかいため浸食されてえぐれており、硬い玄武岩がオーバーハンク状にせり出しています。



写真2：落合(おてや)の滝

その横の観音堂は泥岩の部分が奥深く削られていて、中へ入ると頭上に玄武岩の基部を観察できます。地域の霊場となっているため、節度を守って観察したいものです。

講演を聴かれた感想をお待ちしています! 600字程度にまとめて、させば夢大学事務局まで、郵便・FAX・メール等でお送りください。締切日は原則として、講演日の1週間後の木曜日(必着)です。